

2021 年度（第 36 回）国立大学日本語教育研究協議会 情報交換「コロナ禍における日本語教育」

【分科会 3】

「コロナ下における留学生の受け入れと日本語教育の実施」報告

司会：高橋志野（愛媛大学）

対面、オンライン（リアルタイム、オンデマンド）、ハイフレックス／ハイブリッドと様々な形態で授業が行われている。

（1）機材

- ・ 360 度 Web カメラ（Meeting Owl Pro）・ Speaker Phone の利用が効果的。ただし、セッティング（10 分はかかる）と撤収が大変。慣れると大丈夫だがトラブルがあると代替の機器を手配するのが大変。
- ・ 半数は対面、半数はオンラインの授業では、教室の学生にも Zoom で入ってもらい、ミュートにして Speaker Phone で声を拾うとエコーも気にならない。

（2）オンラインのメリット

- ・ 複数のキャンパスがある場合、他キャンパスの学生にも授業が提供できるので、オンラインのメリットは大きい。
- ・ 海外の協定校とつながり交流活動をすることができた。これを 1 学期通した実施で授業にできるか。

（3）オンラインのデメリット

- ・ 対面とオンラインが時間割で前後すると、学生が大変（オンラインできる教室、オンラインで話せる教室を各自が探さなければならない）。
- ・ 未入国の留学生対応では、時差のある国の学生が大変。
- ・ 自国で購入できない場合の教科書の手配が大変。

（4）特に人間関係の構築

- ・ 学ぶことはオンラインでも対面でも変わらないとのコメントが学生からあったが、その一方で、人間関係が構築できず学びの意欲が高まらないとの意見もあった。
- ・ Zoom のブレイクアウトは有効。
- ・ 教員は関知していないが、学生同士が SNS でつながってグループワークをやっているという例がある。

（5）その他

- ・ 未入国の交換留学生に対する単位認定を実施している大学と実施していない大学がある。実施している大学の場合、受け入れを決定した段階で学籍を出すため、単位を与えることができるとのこと。

以上